

アフガニスタンを知って そして忘れないで！

12月8日（火）、大白書中学校から依頼を受け、1・2年生を対象にした国際理解出前講座を実施しました。講師は、アフガニスタンの地雷被害者に義手義足を届ける活動をされている春木^{のぶあき}信韻さんです。

春木さんは、ボランティアでアフガニスタンに十数回渡航し、地雷で手足をなくした方々に直接会って型をとり、日本でリサイクルの義手義足を加工して再度現地に届けるという活動をして来られました。



講座に先だって、財団職員が「せかいいち うつくしい ぼくの村」という絵本を紹介しました。この絵本はアフガニスタンに住む一人の少年の1日の物語で、小学校の国語の教科書に採用されています。春木さんが訪れた村の様子にととても似ているようで、戦争以前の平和で美しいアフガニスタンの様子が、よくわかります。

春木さんのお話は、アフガニスタンの概要から始まりました。おだやかな人々の暮らしとともに、目をそむけたくくなるような戦争の爪痕が残る写真もあり、実際に訪れた人ならではの、実感のこもったお話でした。

春木さんの活動については、豊富な写真とともに、義足をつけて歩く練習をする人の動画も紹介され、義手義足の支援が物を送るだけの支援でないことがよくわかりました。長時間の講座にもかかわらず、生徒の皆さんは真剣に聞き、春木さんの「知ること、そして常に関心を持っていることが大事」という言葉をしっかりと受け止めてくれたように感じられました。



～聴講後の感想文から～

- 今の私たちのように、勉強が十分にできて毎日楽しく過ごせることが、何より幸せだと実感した。
- 私も将来、春木さんのように人のため、誰かのためとか、考えられる人になり、そんな仕事につきたいです。
- こういった活動を10年間も続けている春木さんの姿にととても感動しました。